

はとう
博愛は波濤を越えて
—博愛 (Fraternité / Adelphité) の「ひろやかさ」—

伊 藤 英 一*

- 1、「博愛社」の創設と「日本赤十字社」の発祥
～西南戦争時の博愛と赤十字の受容への道～
- 2、博愛社から日本赤十字社へ
～昭憲皇太后と桐竹鳳凰文の選択～
- 3、自由・平等・博愛 ^{アデルフイテ} Adelphité (博愛) の時代へ？
～ ^{フラテルニテ} Fraternité を「博愛」と和訳した慧眼と配慮～
- 4、博愛と「みんな兄弟 (Fratelli Tutti)」を祈念するフランチェスコ
～聖フランチェスコとフランチェスコ前教皇の博愛～
- 5、博愛と平和を祈念するイタリアの祝祭日復活
～博愛と祖国愛が分断社会を結び直す～
- 6、博愛と祖国愛を紺碧の地中海に
～「君を助ける人を裏切るな」～
- 7、博愛は姉妹愛と女性だけの家族愛から
～メローニ姉妹が率いる「イタリア兄弟 (Fratelli d'Italia)」党～
- 8、「博愛」の貴重性と昭憲皇太后
～ひろやかな愛は世界に優しい平和をもたらす～

1、「博愛社」の創設と「日本赤十字社」の発祥

～西南戦争時の博愛と赤十字の受容への道～

「博愛社」創設と「日本赤十字社」発祥の地を記念する案内板が千代田区により設置されている。JR 飯田橋駅から外堀沿いに法政大学ボアソナード・タワー方向に歩いて数分弱、東京通信病院の敷地内、緑豊かな場所である。

1877年（明治10年）、西南戦争（西南の役）の最中であって、西郷隆盛を盟主とする賊軍側か、あるいは官軍側であるかを問わず、官賊軍双方の傷病者を看護救済するとの博愛社が発足している。

この時、実践された博愛社による博愛活動では、敵味方を問わずに、戦場での負傷者、疾病者を

*いとう えいいち 元日本大学法学部新聞学科 教授

看護救済することが務められたと言う。西南戦争が内戦にとどまったこともあり、官軍、賊軍の双方が共々、天皇、皇家の赤子であることが強調されたのである。

日本赤十字社発祥の地

Birthplace of the Japanese Red Cross Society

日本赤十字社は、西南戦争中の1877年（明治10年）に敵味方の区別なく救護活動を行うために佐野常民や大給恒、櫻井忠典らによって設立された博愛社が前身です。当時、本拠地は東京市麹町区富士見四丁目九番地（現在の富士見二丁目：現在地）の櫻井邸に置かれました。

博愛社は1886年（明治19年）、麹町区飯田町四丁目（現在の飯田橋三丁目）の陸軍省用地を借り受けて事務所と病院の建設を行います。日本政府がジュネーブ条約に加入した翌年の1887年に博愛社は日本赤十字社と改称しました。総裁には小松宮彰仁親王、社長には佐野常民が就任しました。

福島県での磐梯山噴火（1888年）、和歌山県でのトルコ軍艦エルトゥール号遭難事件（1890年）、愛知県・岐阜県での濃尾地震（1891年）をはじめとして日本赤十字社は創立直後から広範な救護活動を行っています。

なお、1891年（明治24年）、日本赤十字社病院は飯田町4丁目から南豊島御料地（現在の渋谷区広尾）へ移転しました。

The predecessor to the Japanese Red Cross Society was the Hakuaisha ("Benevolent Society") established by Sano Tsunetami, Ogyu Yuzuru, and Sakurai Tadaoki, to provide first-aid relief to both sides of the Satsuma Rebellion in 1877. At the time, the society was based at the Sakurai mansion in Fujimi cho 4-chome, Kojimachi Ward (current-day Fujimi 2-chome at this location).

In 1886, Hakuaisha built a hospital and office on land borrowed from the Ministry of the Army at Iidamachi 4-chome, Kojimachi Ward (current-day Iidabashi 3-chome). Following the Japanese Government's signing of the Geneva Convention, Hakuaisha changed its name to the Japanese Red Cross Society in 1887. Prince Komatsu Akihito was appointed Governor and Sano Tsunetami was appointed President.

Soon after its establishment, the Japanese Red Cross Society became involved in widespread first-aid relief activities, primarily after the volcanic eruption of Mt. Bandai in Fukushima (1888), the wreck of the Turkish warship *Ertugrul* in Wakayama (1890), and the Nobi Earthquake in Aichi and Gifu (1891).

The Japanese Red Cross Society Hospital was relocated from Iidamachi 4-chome to Imperial Estate land in Minamitoshima (current-day Hiroo, Shibuya City) in 1891.



佐野常民 (日本赤十字社蔵)
Sano Tsunetami



大給恒 (日本赤十字社蔵)
Ogyu Yuzuru



櫻井忠典 (櫻井神社蔵)
Sakurai Tadaoki



千代田区
Chiyoda City



詳しくはこちら
For More Info

（2025年12月5日 筆者・伊藤英一撮影：東京都千代田区富士見2-14-23にて）

ところで、イタリア・ロンバルディアの丘陵ソルフェリーノで、ナポレオンⅢ世とヴィットーリオ・エマヌエーレⅡ世が率いるフランス帝国およびサルデーニャ王国の連合軍が、フランツ・ヨーゼフⅠ世率いるオーストリア帝国軍と凄惨な戦いを繰り広げたのは1859年6月24日であった。

この時の戦闘そのものの惨状もさることながら、勝者敗者双方の負傷者の多くが非常な断末魔に苦しむ状況に置かれたまま放置されていたという。そのような場に遭遇した一人がアンリ・デュナンであった。苦境の中で放置されたまま多くの生命が失われて行く状況でありながらも、村の女性たちが「みんな兄弟（Tutti Fratelli / Tous frères）」と、救済支援に献身奉仕する姿に感銘を受けている。

スイスのジュネーブに戻ったデュナンは、戦場の惨状を、広く社会の人々に伝え、戦時にあつての博愛活動の必要性を訴える為に「ソルフェリーノの思い出」⁽¹⁾を執筆することに注力、1862年により印刷所で印刷したものを自費配布するまでに漕ぎ着けたのだった。その反響は大きく、直ぐに再版がなされ流通ルートに乗せることが出来た。

その翌年の1863年には、赤十字国際委員会（Le Comité international de la Croix-Rouge ;CICR）⁽²⁾が発足した。

更に、その翌年の1864年には16カ国の参加を受けて、「戦地軍隊に於ける傷病者の状態改善に関する条約」、いわゆるジュネーブ条約あるいは赤十字条約⁽³⁾が締結されるに至っている。

その後、幾度もの修正、改正、追加等を経て、今日に至っているが、1864年に作成された最初の条約の第5条および第6条で、条約や組織の原初的理念である傷病軍人が人道的、中立的に、尊敬を受け、自由が保持されること等が規定された。

続いて、第7条⁽⁴⁾には、旗及び腕章には白地に赤十字が用いられるとの白地赤十字章に関する明記がなされた。他の標章やデザインを許容する柔軟性が当初は想定されていなかったのである。この白地赤十字が日本でも受入れられた経緯については、次の項で述べることにしたい。

余談になるが、ソルフェリーノの戦いは1859年6月24日の一日限りの短期で、人口も3千人に満たない狭い地域周辺で、33万人以上の兵力が激突した戦いであったが、今日のフランス、イタリア、オーストリアの国勢に大きな影響をもたらした切っ掛けとなっている。南仏の中心地でもあるニースと紺碧のコート・ダジュール、フランス・アルプスの要であるシャモニー＝モン・ブランを含むサヴォアがフランス領になったのは、戦いの翌年1860年のことであった。

一方、長靴の形にも喩えられるイタリア半島が一つの国として一体化した今日の姿に近いイタリア王国が翌々年の1861年に建国されたのである。

ソルフェリーノの戦いの後の1860年前後に於けるヨーロッパの動きが如何にダイナミックなものであったかが覗えよう。

2、博愛社から日本赤十字社へ

～昭憲皇太后と桐竹鳳凰文の選択～

白地赤十字章を標章とする旨が条約上に明記されてから12年後の1876年、キリスト教国であるロシア帝国と交戦中（露土戦争）であったイスラム教国のオスマン帝国は、自国側の支援活動上、赤十字を用いる事は支障があるとして、「白地に赤の三日月（croissant rouge sur fond blanc）」の赤新月旗（正確には赤三日月旗）を用いる旨を CICR 本部に通告した。しかし、赤十字条約の原加盟国であったオスマン帝国トルコによる赤新月旗使用が条約上で認められたのは1929年になってからで、53年間待たなければならなかった。⁽⁵⁾

当時のフランス代表は、「赤十字章に宗教的な意味はなく、最初の提唱国であるスイスの連邦旗への敬意を表し、それに因んで赤白を逆転させたものである」との説明を行ったとされる。

しかし、スイスへの敬意を表したことは紛れもない事実であっても、その敬意の対象となったスイス連邦、あるいは嘗て^{かつ}のサヴォア公国の国旗や国章の由来に拘わる伝承は微妙である。赤地はイエス・キリストが原罪を負った罪人^{つみびと}とされる人々を贖^{あがな}って下さった血を象徴するとも言われ、その赤い血が白い十字架を囲んでいるとの歴史的認識には否定出来ない面もある。⁽⁶⁾⁽⁷⁾

赤十字章に宗教的意味があり得るとしたトルコの主張を誤解であったとは言い切れない。

このような時代的背景と世界的な状況にも拘わらず、日本は1886年（明治19年）にジュネーブ条約（赤十字条約）に加盟を果たし、翌1887年には博愛社の社名を日本赤十字社に改称している。

日本はキリスト教国でないばかりか、赤十字加盟の13年前、1873年（明治6年）に、キリシタン禁制の高札を太政官布告第68号により撤去したばかりだった。

日本赤十字社の社章は、赤十字を桐、竹、鳳凰が取り囲むデザインで、昭憲皇太后が髪にさしておられた簪かんざしの模様を用いたものであるとされている。⁽⁸⁾

中国古来の高貴瑞祥を示す桐竹鳳凰文で十字を囲むことにより、ゴルゴダの丘の十字架にまつわる宗教色なごを和ませるのに成功したのではないかと推察される。

日本赤十字社の前身となった博愛社の社名に採用された「博愛」にしても、中国の墨家が用いたとも思われる博愛を引き、敢えて Tutti Fratelli / Tous frères や Fraternité / Fraternity が意味するカトリック的な、ないしは聖フランチェスコが説かれた「兄弟（愛）」の枠や範囲を緩和解消することにより、キリスト教の色彩を感じさせないよとの配慮があったかと思われる。

ここで、「博愛」の項目を広辞苑（第六版）で引くと、先ず、漢語出典として、「孝経三才章」が挙げられている。続いて、「ひろく愛すること。平等に愛すること。」と博愛の意味するところが述べられている。以下、性霊集の引用がなされ、博愛社について「日本赤十字社の前身。1877年（明治10年）」との解説が続いている。⁽⁹⁾

この広辞苑の記す「ひろく愛すること。平等に愛すること。」は、正に新約聖書に記述された、キリストが説かれたところの凝縮された精髓である。

一方、「博愛」の意味するところには、肉親や宗教団体、秘密結社等々の枠あるいは男子成員間の枠に縛られた Fraternité / Fraternity（兄弟愛）よりも、広範でユニヴァーサルな、正に新約聖書に記された「愛」と合致した言葉である。

即ち、今日の日本語で用いられている「博愛」、あるいは孫文の好んだ「博愛（博愛）」こそ、表意文字としての漢字が示すと通りの現在の意義を体現すると同時に、フランス革命を始めとした歴史の荒波を越えて、新約聖書に説かれた真髓を今日に伝えていると言えよう。

キリストが愛を説いた場であるパレスチナは、今も続く戦闘の場であり、赤十字、赤新月、赤いダビデの星（ダビデの赤盾）あるいはダビデの赤盾を囲む赤水晶等の多様な標章が混在する状況が続いている。

一方、極東地域では地域全体が赤十字（紅／紅十字）の受容で一致しており、パレスチナでの混在振りと対照的である。遡ること140年前、極東地域で赤十字受容の先鞭をつけた日本が対処した経緯から、良き先例が見つければと願われる。

かつての日本では、キリスト教や十字架に抵抗する状況もあったのであり、それを如何に乗り越えたのかは、大切な経験であり、そこから得られた教訓を世界で生かせる面があればと祈りたい。

3、自由・平等・博愛^{アデルフィテ} Adelphité (博愛) の時代へ？ ～ Fraternité^{フラテルニテ} を「博愛」と和訳した慧眼と配慮～

Liberté, Égalité, Fraternité (自由、平等、博愛) の三連語 (triptyque) は現在のフランス共和国の標語となっており、三色旗の青、白、赤で象徴されている。この三連語は、1709年12月、ロベスピエール (Robespierre) が国民軍についての演説で言及したのが最初と言われ、第2共和政の時代となった1848年に憲法第4条に明記されたものである。この時、教会側も、この三連語がキリスト教の神髄を過不足無く反映し、正しく盛り込んでいることを認めたとされている。特に、「司祭たちはキリストにおかれる博愛を祝福した (les prêtres célèbrent la fraternité en Christ)」旨が大統領府であるエリゼ宮のサイト⁽¹⁰⁾で現在 (2026年1月8日) も尚、述べられている。フランス共和国はライシテ (Laïcité；非宗教性 / 政教分離) であることを謳ってはいるが、キリスト教、なかんずくカトリックの精髓である精神性については正しく受容し、受け継いでいることを自負しているように思われる。

自由と平等が市民の権利であることを謳う一方で、博愛 (Fraternité) は市民の義務であり、道徳的誓約 (engagement moral) として標榜されて来ている。

ここで三連語中の三番目に、取り敢えず博愛との訳語で示した Fraternité (フラテルニテ) については、どのように和訳するかの問題もさることながら、それ以上の本質的な問題としてフランス語の Fraternité が標語として正しい選択なのかとの議論が当のフランスでも繰り返し再燃している。選択されるべき標語のイメージは一致しているかのようであるにも拘わらず、しっくりした単語が見つからないような、もどかしくも、曖昧な状況なのではなかろうか。

日本の社会で、肉親以外、兄弟姉妹関係であるが如き呼びかけをするケースは、然程^{さほど}、一般的なものではないように思われる。「姐さん^{ねえ}」、「姉さん^{あね}」、「姉御^{あねご}」と呼びかけられる、あるいは呼びかけさせていただく環境や状況を想像してもらいたい。

しかし、同じ日本の中であっても、フランス系やフランス語圏カナダ系のミッション・スクールで、女子修道院関係の先生方に「マ・スール (Ma Sœur)」と御声掛けするのは、まっとうで、上位の方で「マ・メール (Ma Mère；御母様)」とお呼びするべき状況でなければ、失礼にはならない。

また、「マ・スール (Ma Sœur)」との呼びかけを「御姉様」のように生まれた年が先である場合のように訳するか、妹であるかのように解釈するかは状況による。

Sœur との単語には姉あるいは妹の区別はなく、日本語の姉妹のように年齢の幼長を反映した単語ないしは二字熟語とは異なっている。

#MeToo 運動や、男女同権の実践の過程で、ラテン語で姉妹 (sœur；スール) を意味する soror に遡ると同時に、中世の女性の宗教共同体を示すラテン語 sororitas を援用し、出自の社会階層、人種の差を問わない連帯を示す標語として sororité を提言、男性兄弟を当然の前提とする

fraternité と同等同格にしよう、あるいは代替させようとする動きもある。⁽¹¹⁾

嘗て、フランスの大統領選挙に出馬したセゴレーヌ・ロワイヤル (Ségolène Royal) 元環境大臣は、自由、平等の^{かつ}後に sororité (姉妹愛) を続け、「Liberté, Égalité, Sororité」⁽¹²⁾ と演説している。「sororité (姉妹愛) とは、女性間の連帯であり、女性にとって男性の^{あと} fraternité (兄弟愛) と等しいものだ」と、訴えた。

ここで触れられている sororité (姉妹愛) や fraternité (兄弟愛) では、出自の社会階層、人種、男女の差のように、わざわざ言及される迄もなく、年齢の上下が問われないのは、女性の場合の sœur も、男性を指す frère も同様に、日本語のような年齢差を示す単語では無いからである。

日本語のような兄と弟、姉と妹との識別は、フランス語やドイツ語では幼長を示す形容詞等を付加する形で行われおり、本来、出生順次による差はない。

例えば、兄は frère aîné、姉は sœur aînée と、年長を示す形容詞 aîné (e) を付けて示される。もっとも、兄弟姉妹中の最年少の男子を benjamin、女子は benjamine と読んだりするが、これは聖書でヤコブの末子が特に可愛がられたとの喩えに由来している。また、末子あるいは第二子を表す cadet (男子) / cadette (女子) のような単語もある。

従って、例えば、fraternité を兄弟愛、sororité を姉妹愛と訳した場合のニュアンスや意義、年代差の問題と兄弟や姉妹の社会的範囲の問題が入り混じり、フランス語と日本語のそれぞれから受ける印象や意味は異なって来ざるを得ない。

また、fraternité を友愛と訳するのが正しいとする向きもあるが、これは間違っている。Fraternité には、義務としてのニュアンスがあるが、これは兄弟姉妹が選択不可であるとの要素も伴っているからである。

逆に、友との概念は選択可能な概念である。友情に基づく愛ならば amitié との単語があり、また共和国の標語とするまでもなく、またその逆効果や逆機能も懸念されるのではなかろうか。組織内の用語として使われている fraternité と amitié に関する検討がコルシカの秘密結社等で検討されたこともあると伝えられており、そこでの論議は参考になる。

Fraternité の範囲や視界には、当然、祖国や社会への愛も含まれ、それに基づく愛に伴う義務には、現在マクロン政権が再導入を検討している兵役義務も含まれて来る概念なのである。今年 (2026年) 夏に向けて募集される兵役は志願制であるが、その対象には女性も含まれている。

なお、友の選択は自由であると言っても、戦場で味方 (戦友) を見捨てることは許されない。この場合は、fraternité に由来する義務があることによる。

ここで改めて、フランス語辞書の小ロベール (Le Petit Robert) で fraternité の項目を引いてみよう。Fraternité は、12世紀のラテン語 fraternitas 由来の女性名詞で、意味するところの筆頭に稀なケースとして、Parenté entre frères et sœurs (兄弟姉妹の血縁関係) と、1番目の意味が挙げられている。2番目には、Liens existant entre les hommes considérés comme membres de la famille humaine ; sentiment profond de ce lien. (人類家族のメンバーと見做される人々の間に存在する連繋 ; この連繋の深い感情) と、通常意味するところが述べられている。

フランス語の文法の授業などでは、例えば、「女性の三人称複数の代名詞は elles（彼女たち）であるが、男性が混在する場合は ils（彼たち）と男性向けの三人称複数を用います」と教えられたりする。

しかし、#MeToo 運動の Me が女性であるとしたら、Me が ils（彼たち）と男性扱いされることに釈然としない場合もあるのではなかろうか。

話が横道にそれるが、2025年10月21日、日本で初の女性首相として、高市早苗内閣総理大臣が誕生した。それも、「働いて×5」と、明るく積極的な行動が内外で脚光を浴びた。首相就任後5日足らずの10月26日、クアラルンプールで開催された ASEAN^{アセアン}の会合では、議長から「男性陣に勝ち抜いた」と紹介され、満場の笑顔と喝采にて迎えられた。⁽¹³⁾ 国際的にも華々しい、本邦初の女性首相の登場であった。

しかし、フランスのメディアが大きな関心を寄せたの話題の一つは、11月23日、大相撲九州場所の千秋楽と優勝決定戦に向けての話であった。⁽¹⁴⁾ 安青錦関^{あおにしき}への内閣総理大臣杯の授与に、女性首相が土俵にあがることが認められるか否かの、微に入り細を穿った解説や観測が入り混じったのである。

日本の神道がらみの禁制に関し、女性への差別であると言った言説がフランスのメディアで声高に論じられることもあるが、当のフランスに於けるカトリック関係の男子限定の場、あるいは秘密結社による女子禁制等についての話になると、政教分離^{ライシテ}を持ち出して宗教がらみの問題には関与しない、または結社の自由との逃げがまかり通ったりする。別段、相撲を巡る日本側の理屈を100%正しいと思っている訳ではないが、腑に落ちないところがあるのは確かである。

日本の相撲の文化、歴史、宗教的な背景等に関する、浅薄な知識を露呈して恥じることの無い状況は少々淋しいものがあつた。

しかし、11月23日千秋楽の前日と当日、高市首相は南アフリカ・ヨハネスブルクで開催されたG20の会合に出席、イタリアのジョルジャ・メローニ（Giorgia Meloni）首相と喜色満面の劇的な邂逅⁽¹⁵⁾を果たす等、別の情景で世界のメディアの注目を引くこととなった。

更に、高市首相とメローニ首相の二人は、12月10日にフォーブス誌が発表した「2025年、世界で最もパワフルな女性100人」⁽¹⁶⁾に選出され、高市首相が第3位に入り、その影響でメローニ首相が一昨年および昨年の第3位から二年前に占めていた第4位に戻る形となった。

ジュネーブに本部を置く世界経済フォーラム（World Economic Forum ; WEF）が発表しているグローバル・ジェンダー・ギャップ報告（Global Gender Gap Report）⁽¹⁷⁾では、男女間の不平等（gender inequality）を解消する面で日本の遅れが顕著であり、男女間平等進捗順位が2025年では148カ国中118位とされている。毎年、6月中旬頃、この WEF の報告が出る度に、ジェンダー・ギャップの示す指数そのもので納得出来る部分と、出来ない部分のギャップが悩ましい。

日本初の女性首相誕生が、どの程度、このジェンダー・ギャップでの成績改善に寄与するか注目されるところではある。

ここで、話題の本筋の方に戻ろう。

男性主体の概念である fraternité / 兄弟愛でも無く、女性主体の sororité / 姉妹愛でも無く、それら双方を避けて、男女の差別を克服した概念も提唱されている。

男女のような二項対立的な要素を含むことなく、また同志とか戦友のような他者を排除する可能性のない「愛」を表象象徴することが可能で、地球的な規模での一体感を醸成できるような言葉としてギリシャ語起源の Adelphité⁽¹⁸⁾ との単語が提案されている。

「女性が創作する女性の為のモード誌 ELLE^{エル}」を標榜する女性誌エルは、「fraternité^{フラテルニテ}（兄弟愛）や sororité^{ソロリテ}（姉妹愛）なんて、うんざり？ adelphité^{アデルフィテ}（兄弟姉妹愛）を試そう（Marre de la fraternité et de la sororité ? Essayez l'adelphité.)⁽²⁰⁾」との見出しを打っている。

そこでは、兄弟を意味する ἀδελφός, adelphós と、姉妹に該当する ἀδελφή, adelphé の双方に共通する語幹の adelph から、男女の区別の無い Adelphité を再生して用いようとの1970年頃からの動きが紹介されている。Adelphité^{アデルフィテ}（兄弟姉妹愛）をもって、男女の差別を克服し、出自の社会階層、国籍、人種や年齢差を超越して、地球的規模での人々の連帯を示す標語として試そうと言うのだ。

Adelphité の先例の一つに、アメリカ合衆国誕生の街とも呼ばれるフィラデルフィア（Philadelphia / Philadelphie）の都市名がある。古代ギリシャ語で「兄弟姉妹愛の町」、あるいは「兄弟姉妹が愛する街」⁽²¹⁾ を意味する命名であったと言う。

また、Adelphité との単語の淵源は、新約聖書の『ペトロの手紙』に見出されるとの説があるものの、筆者にはペトロの筆になるとされる原文のギリシャ語に関する素養がないので、ここでは検索結果の概要のみを記録するに留めたい。

新約聖書の『ペトロの手紙』にある「すべての人を敬い、兄弟を愛し」⁽²²⁾ との言葉を、Google の Mode IA（AI モード）を利用してフランス語訳と原文のギリシャ語ではどのように表現されているかを検索してみた。結果のほんの一部を抜粋すると下記のとおりである。

« Honorez tout le monde ; aimez la fraternité (adelphotēs / ἀδελφότης) »

- Signification unique : Contrairement au mot adelphos (frère), adelphotēs désigne la fraternité en tant que corps collectif ou communauté organique.
- Solidarité universelle : Dans 1 Pierre 5:9, il souligne que cette *adelphotēs* est mondiale.

上記の結果から推察されるのは、初代ローマ教皇でもある使徒ペトロの言葉とされるギリシャ語での「adelphotēs / ἀδελφότης」は、単に「兄弟愛 (la fraternité)」と訳されるよりも、その愛の対象となる範疇が集団、共同体、更には遙かに広域に広がった世界的連帯を指していることである。

Adelphotēs は、その当時（紀元1世紀後半）、使徒ペトロが精進していた初期共同体としての教会の組織およびそこに参集する男女、兄弟姉妹への愛は勿論のこと、外部世界との連帯から醸成される愛が含まれていることが理解出来る。

そこは、男女双方を包摂し、自由人 / 市民と奴隷との区別を敢然と否定しながら立ち向かう、外に開かれた世界であったようだ。⁽²³⁾

Adelphotēs から創られた Adelphité が Fraternité に取って代わる時代が来て、その Adelphité を和訳するとすれば、これまでと比べれば「博愛」が、より、しっくりする。

自由・平等・博愛の和訳に合致した標語がフランスで採択される日が来るとしたら、Fraternitéを「博愛」と和訳して紹介した先達の慧眼と配慮に拍手喝采となるのかも知れない。

但し、その Adelphité の意味からしても、所詮、兄弟姉妹愛の延長上での意味に留まっている概念である。肉親であれ、宗教団体や秘密結社であれ、兄弟や姉妹と呼ばれる視界には一定の垣根や制約がある。

「博愛」とは、垣根の無い、ひろい視野の世界に拡がっている言葉のように想われる。とらわれの無い無碍の拡がりの大切さを「博愛」は示している。「博愛」の「ひろやかさ」は無辺無碍に拡がる世界である。

使徒ペトロの言葉とされるギリシャ語の「adelphotēs / ἀδελφότης」と、「博愛」の双方を勘案した言葉が創成されるのが望ましい。

4、博愛と「みんな兄弟 (Fratelli Tutti)」を祈念するフランチェスコ

～聖フランチェスコとフランチェスコ前教皇の博愛～

アッシジの聖フランチェスコ (St Francesco d'Assisi) は、実父とは義絶しており、彼にとっての父とは「天にまします父」のみであった。その父とは唯一の神であり、人々はその唯一の父たる神に創造された存在である以上、聖フランチェスコにとっては、日常の生活においても、「みんな兄弟 (Tutti Fratelli / Tous frères)」であった。

1182年にアッシジで生誕した聖フランチェスコは、イタリア語とフランス語で博愛を説き、オック語（プロヴァンス語）で謳い、小鳥たちに説教をしながら、徹底した清貧の中、アッシジで1226年10月3日に亡くなっている。

今年2026年は、聖フランチェスコの歿後800年にあたり、聖体顕示を始めとした諸行事が予定されている。なお、スペインの画家フランシスコ・デ・スルバラン (Francisco de Zurbarán) によって描かれた聖フランチェスコが天に祈る姿絵はフランスのリヨン美術館で常設展示されている。⁽²⁴⁾ 聖フランチェスコの視点の先の天空には神々しい空気が満ちているようで、あたかも天から我々の祈りを守っているかのような気力を感じさせられる。

また、その聖フランチェスコを尊敬、その名を継承した初の教皇となったフランチェスコ教皇 (英語読みはフランシス、フランス語読みはフランソワ) は昨年 (2025年) 4月21日に亡くなった。

その折には、フランチェスコ教皇が示された博愛 (兄弟愛) に溢れた祈りの行動に対して、地中海や山脈を越える途中で苦難を味わった人々の間での哀切な感謝の声が聞かれたという。⁽²⁵⁾

アルゼンチン出身でイエズス会からの初の教皇であり、聖フランチェスコの博愛 (兄弟愛) への思いに溢れる回勅が2020年に出されている。⁽²⁶⁾

その折の模様は、バチカン・ニュースの広報サイトで伝えられていた。アッシジの聖フランチェスコが亡くなって794年目にあたる10月3日、聖フランチェスコの墓の上で、回勅「Fratelli Tutti」⁽²⁷⁾
フ ラ テ リ ト ッ テ ィ

にフランチェスコ教皇が署名をしている。新型コロナウイルス感染症流行の渦中でもあり、発生後の最初となる、また教皇就任後としては四度目となるアッシジ訪問であった。

なお、その回勅の最初のドラフトはフランチェスコ教皇が母語であるスペイン語で示されたとのことであるが、ウェブ上では20カ国語で公表されている。

その内容は、日本語版の場合では273ページの回勅全文がダウンロード出来るので、そちらを御覧いただくこととして、ここでは表面的な話になるがタイトルがらみの問題に絞りたい。

「みんな兄弟 (Fratelli Tutti ; Tutti Fratelli)」との八世紀を遡る聖フランチェスコの言葉を現在および未来に向けて生かす為にこそ回勅は出された筈である。

回勅の最初の本文1項冒頭部分を、邦文、中文、英文、仏文、伊文で一覧してみよう。(下線は筆者による)

(邦文) 「フラテッリ・トゥッティ (兄弟の皆さん)。」アッシジの聖フランシスコはこのことばを、すべての兄弟姉妹に語りかけるために、そして福音が香る生き方を勧めるために用いました。

(中文) 「众位弟兄……」圣方济各·亚西西写信给他的一众弟兄姊妹时，这样称呼他们，并向他们推举一种散发福音味道的生活。

(英文) “FRATELLI TUTTI”. With these words, Saint Francis of Assisi addressed his brothers and sisters and proposed to them a way of life marked by the flavour of the Gospel.

(仏文) « Fratelli tutti », écrivait saint François d'Assise, en s'adressant à tous ses frères et sœurs, pour leur proposer un mode de vie au goût de l'Évangile.

(伊文) «Fratelli tutti», scriveva San Francesco d'Assisi per rivolgersi a tutti i fratelli e le sorelle e proporre loro una forma di vita dal sapore di Vangelo.

ここで、順序は逆になるが、回勅の表題 FRATELLI TUTTI に続く副題に戻ってみる。

(邦文) 兄弟愛と社会的友愛について

(中文) 论兄弟情谊与人际友爱

(英文) FRATERNITY AND SOCIAL FRIENDSHIP

(仏文) SUR LA FRATERNITÉ ET L'AMITIÉ SOCIALE

(伊文) SULLA FRATERNITÀ E L'AMICIZIA SOCIALE

回勅の最初の本文1項冒頭部分では、語りかける対象としての読者あるいは視聴者として兄弟姉妹に呼びかけており、姉妹も含まれているにも拘わらず、副題の言葉には、先の章で触れた様な ^{ソロリテ}sororité (姉妹愛) や ^{アデルフィテ}adelphité (博愛) のような未来志向的な言葉は用いられていない。特に、イタリア語の前文にはラテン語の姉妹に近い *sorelle* が言及されている一方、副題の方には男性由来の色彩の強い FRATERNITÀ が使われている。

また、本文には、聖フランチェスコが説かれた福音書の香りや味わいを重んじた生き方ないしは生活が唱導されている。一方、副題の方は、友愛とか社会的友情と、「友」との愛や情が触れられ

ている。「友」と呼ぶからには、言外に「友」の範疇から外れる存在、例えば敵や仲間はずれを排除した存在が想定される概念である。

聖フランチェスコが、実父とは義絶関係にあったことは既に述べたが、聖フランチェスコが父と呼ぶ対象は唯一の神である以上、その神の創造された人であるみんなは兄弟姉妹となり、「友」のように取捨選択が可能な存在ではないこととなる。

「みんな兄弟 (Fratelli Tutti ; Tutti Fratelli)」と謳った聖フランチェスコの言葉を、矮小化、狹隘化するのではなく、むしろ逆に女性や敵を包摂するようなモットーが求められているのではなかろうか。

福音書の「山上の説教 / 垂訓」で、キリストが幸いな人として説いた人間像を思い起こしてみよう。

「マタイによる福音書」の5.43や、「ルカによる福音書」の6.27で、キリストが、何故、「敵を愛しなさい」と説いたのであろうか。

「友」は選択可能で、友情そのものは尊いものではあるけれど、その選択可能性を超えての愛こそ、「山上の説教 / 垂訓」で説かれた真髄であるように思われる。

今般の回勅の副題からは、姉妹の愛と敵への愛が忘れられているように思われる。

Fraternité (兄弟愛) との言葉の含意でもある男性優位の発想は、福音書の随所に見受けられる博愛とは遠いものなのではなかろうか。キリストが示された、女性、弱者、貧者、仲間はずれにされた人、あるいは野に咲く花への愛こそが貴重なのではなかろうか。

Poverello (いと小さき貧者) と呼ばれる聖フランチェスコが説かれた fraternité を、「フラテルニテ宇宙的」で、ユニヴァーサルな、みんな (生きとし生けるもの) の父である神が創造されたすべてを結ぶ fraternité (fraternité «cosmique», universelle, unissant toutes les créatures de Dieu, unique père de tous)⁽²⁹⁾」と形容しているバチカン・ニュースである。

その形容句にふさわしい fraternité に代わる適切な単語と、女性にも開かれたバチカンが見出されればと祈りたい。

5、博愛と平和を祈念するイタリアの祝祭日復活

～博愛と祖国愛が分断社会を結び直す～

「イタリアとイタリア国民の為の、愛的一幕 (un atto d'amore per l'Italia e il suo popolo (un acte d'amour pour l'Italie et pour son peuple)⁽³⁰⁾」であると、メローニ首相は祝意を述べ、「聖フランチェスコの おまつり 良い御祭を！ (Buona festa di San Francesco!)⁽³¹⁾」と締め括った。

2025年10月4日、イタリアのアッシジでの聖フランチェスコ記念祭の式典に出席したメローニ首相は、翌2026年からは、10月4日が、イタリアの全国民の祝日、休日としての聖フランチェスコ記念日として復活することを報告、祝福した。また、フランシスコ前教皇を偲び博愛と平和を祈念する祝祭日ともなることの意義が、イタリア国民にとってだけでなく、世界に向けての意義も大きいことを強調した。

ちなみに、アッシジの聖フランチェスコはイタリアのパトロン (守護聖人)⁽³²⁾として、バチカンに

より指名されている。

2025年9月16日、イタリア議会の下院である代議院は、「平和、博愛、環境保護および連帯を具現された聖フランチェスコ」⁽³³⁾の記念日である10月4日を祭日とするとの提案を採択した。実施は翌年(2026年)からとし、聖フランチェスコの名を継がれたフランチェスコ前教皇への敬意も併せて示されることとなった。

下院での採決の結果は、賛成247、反対2、棄権6と圧倒的な絶対多数での賛意が示され、上院も⁽³⁴⁾つづが⁽³⁵⁾なく通過、10月8日に公布された。メローニ首相の議会对策の巧妙さが際立った結果となったと言う。⁽³⁶⁾

この祝日化に伴う救急医療費、警察消防等の財政支出は1,070万ユーロ増と見込まれ2026年の予算にも計上されたが、メローニ首相は「分断が進む社会を、聖フランチェスコが一体に結び直して下さる」と、そのメリットを説明している。財政支出増を危惧する反対意見に対しては、無駄な支出の問題ではなく、祖国イタリアのアイデンティティの問題であると一蹴したのだ。イタリアの文化や伝統とカトリックの歴史が表裏一体で不可分の関係にあることをさり気なく表明し、議場を納得させたことになる。

メローニ首相が代表する与党 Fratelli d'Italia⁽³⁷⁾（イタリア兄弟党；FDI）の最若手の女性リーダーであるグラティア・ディ・マジオ（Grazia Di Maggio）議員は「この祝日化で、10月4日はカレンダー上の只の一日ではなく、改めて、イタリアが、伝統と、信仰と、魂に裏付けられた土地であることを思い出す日となる」⁽³⁸⁾と述べている。落ち葉が散り始める初頭の秋の香りを味わいながら、祖国イタリアへの誇りと記憶を取り戻す一日にするのだと述べている。

イタリアでは祝日の一日増が圧倒的支持で採択された状況とは対照的に、フランスでは祝日の二日減が提案されたものの廃案となり政局不安が招かれてしまった。

マクロン政権下のフランソワ・バイル（François Bayrou）首相は、財政赤字削減と経済活性化を目的として、当初は年間11日の祝日の内、復活祭翌日（春の月曜日）と第2次世界大戦対独戦勝記念日（5月8日）に当たる二日分の祝日を廃止するとの提案を行った。しかし、対独戦勝記念日の廃止への反対に遭うと、これに代えて、諸聖人の祝日（11月1日）とのパッケージで二日分の祝日を廃止するとの提案を行った。

しかし、フランス・テレビの報じたところでは祝日削減には84%が不支持と強い抵抗があり、バイル首相は退陣、祝日廃止案を取り下げるに至った。⁽³⁹⁾⁽⁴⁰⁾後任にはセバスティアン・ルコルニュ（Sébastien Lecornu）が2025年9月9日、首相に任命され、祝日廃止案を持ち出す意志はないことを表明した。その首相も任命されて間もなく10月に辞任、程なく再任されたものの、フランスの首相ポストの不安定さが続いている。⁽⁴¹⁾⁽⁴²⁾

勢いのある華やかな国と頓挫したまま芳しさに欠ける国。2025年のイタリアとフランスの対比、あるいはメローニ首相とマクロン大統領の比較では、見受けられる対称性が際立っていた。

メローニ首相は、ムッソリーニを敬愛し、彼女が率いる Fratelli d'Italia⁽⁴³⁾（イタリア兄弟党；

FDI) が第一党に躍進した後も、その党のロゴマークからムッソリーニを象徴する部分を消去しようとする提案を退け、むしろムッソリーニは再評価されるべきであると、従来からの姿勢は堅守した。

しかし、同時に、聖フランチェスコに具現される平等や平和、あるいは環境保護も標榜することにより左寄りの党派も巻き込み、またカトリシズムの底流を基盤としての人々の声も吸収してと、彼女のバランス感覚には優れたものがある。

メローニ首相は、イタリア首相のポストに2022年9月25日就任以来、既に3年以上が経過、安定した政権の運営振りで、その安定性には評価が高い。

フランスのメディアにも、フランスがイタリアに学ぶ時代⁽⁴⁵⁾との論調が見受けられるのも興味深い。

また、ムッソリーニの再評価も進み、第2次大戦中に於けるフランス占領政策のドイツとイタリアの比較、バチカン市国創設の歴史等々、ムッソリーニの業績の検証が進捗するのと平行して、歴史の見直しへの関心も高まっている。

6、博愛と祖国愛を紺碧の地中海に

～「君を助ける人を裏切るな」～

高市首相とイタリアのメローニ首相の二人が、昨年（2025年）末、12月10日にフォーブス誌が発表した「2025年、世界で最もパワフルな女性100人」に選出され、第三位と第四位に名を連ねた事は既に触れた。

メローニ首相は、更に、有力サイトである POLITICO^{ポリテイコ}により、「ヨーロッパで最も強力な人物 (Meloni is the most powerful person in Europe in 2025)」⁽⁴⁶⁾と報じられ、⁽⁴⁷⁾他国の大統領を含む男性陣を抑えての選出となっている。

POLITICO は米国ヴァージニア州アーリントンに本社を置く欧米政策専門サイトであるが、ビルト誌やデイ・ヴェルト紙を擁するドイツのメディア系コングロマリットであるアクセル・シュプリンガー (Axel Springer SE) により2021年10月に10億ドルで買収されている。⁽⁴⁸⁾

そんな米独系メディアの POLITICO が「ヨーロッパ最強の人」と2年連続でメローニ首相を高評価したことを裏付ける発言を米国のヴァンス副大統領がしている。メローニ首相は強力な外交パートナーとしてアメリカとヨーロッパを繋ぐ不可欠な架け橋となってくれていると NBC のインタビューで述べているのだ。⁽⁴⁹⁾

彼女の外交的特質が二つあり、その一つがとても良い聞き手 (very, very good listener) で、合意出来ない二者の双方を、豊かな感知力と洞察力 (perceptive and insightful enough) で理解出来ることにある。

二つ目の特質は、相手が防御的にならないまま、素晴らしい直言を単刀直入にやってのける並々なぬスキルを持っていることだと言う。

ちなみに、2025年2月14日ミュンヘンで開催された安全保障会議で、ヴァンス米副大統領は言論の自由と民主主義がヨーロッパで後退していると痛烈に批判した。この時、大方のヨーロッパ諸国の首脳は反発をし、メディアはヴァンス米副大統領がヨーロッパから総スカンを喰らわされたかのように報じた。

しかし、少なくとも、スイスのカリン・ケラー＝ズッター（Karin Keller-Sutter）⁽⁵⁰⁾大統領とイタリアのメローニ首相の女性首脳二人は、彼に同調し礼賛していたことが印象深かった。もっとも、スイスの大統領（当時）は「自由な講演、ある意味でとてもスイス的」との当初のコメントを、メディアをはじめとした周囲の反発から、若干のトーンダウンを余儀なくされていた。

メローニ首相の外交面での活躍ぶりには目覚ましいものがある。チュニジア、アルジェリアをはじめとした地中海・紅海沿岸諸国、アフリカ諸国、での外交的成果は顕著なものがある。

特に、地中海を横断北上、アフリカから命懸けの苦難を覚悟の上での密航を試みざるを得ない人々が2024年には前年比60%減となった実績は礼賛されてしかるべきと考えられる。⁽⁵¹⁾メディアは危機に瀕する人命に直面すると積極的に報道するにも拘わらず、そのようなリスクを冒す必要の無いように配慮して、政策を立案、外交交渉を実施するといったことには無関心であることが不思議でさえある。

メローニ政権になってから三年余、地中海横断の悲惨な海難事故等に関するニュースが激減したこと、即ち、ニュースが少なくなったことは何故なのか、その理由は何なのか、ニュースにならないような安全性がどのように確保されているのか、その裏方として貢献している人々の姿を伝えることこそがメディアの本来の責務ではないのかと強い疑問を感じさせられる。

メローニ首相の努力の中でも、メディアが報じない部分にこそ、社会の底辺で苦勞し、高等教育も受けられなかった痛みを共有する人々へのメローニ首相の博愛が感じられる。

例えば、2025年12月3日、バーレーンのマナマで開催された湾岸協力会議（Gulf Cooperation Council）⁽⁵²⁾に招待されたメローニ首相の演説は直言が多く、メンバー諸国にとって建設的で親身な内容でありながら攻撃的な姿勢は無く、彼女を歓迎する国々が多いことを実感させる充実したメッセージであった。

メローニ首相の演説は、従来の外交的なアプローチとは異なるが、正直で革新的な新鮮さを感じさせる。湾岸協力会議でのメローニ首相の演説については「攻撃的な姿勢は無く」と評したが、フランス等による旧植民体系の既得権益保持や偽善的虚偽に対しては、むしろ徹底した正義感を表面に出して、破壊的な追求振りで聴衆を巻き込んでしまう熱意には小気味よさを感じる向きも多い。

また、インドのナレンドラ・モディ（Narendra Modi）首相とメローニ首相自身の二人のセルフイー写真を「メロディー；Melodi（Meloni + Modi）」⁽⁵³⁾とのタイトルでアップするような楽しい面も見せている。

2026年1月16日、東京の首相官邸で開催された高市、メローニ両首相との会談ではジブリ・スタイルのセルフイー写真で両首脳笑顔が公開された。⁽⁵⁴⁾その会談終了後、「Ganbarul（頑張る）」とメローニ首相が日本語で高市首相にかけた言葉は1週間後の衆議院冒頭解散を予兆させる緊迫感も覗えるものであった。また、前日の1月15日はメローニ首相の誕生日であり、彼女が羽田に到着し

た前後からハッシュタグ #SanaMelo (Sanae+Meloni) がネット上で流行、その波及効果は大きかった。

イタリアの首相兼閣僚評議会議長に就任して四年目に入った現在、メローニ首相への信頼度や安定性には高いものがある。しかし、彼女が首相に就任した当時、その将来について、イタリア国外のメディアは、彼女を極右のネオ・ファシストと決め付け、懐疑的かつ否定的な評価で報じるところが多かった。イギリスのガーディアン紙 (The Guardian) の論調も、そのような世界のメディアの一般的な流れと同調していた。

そして、メローニ首相の高い人気が続く、その信頼性や安定性についての評価が高まっている理由として、彼女の政策や姿勢が変化したからだとの解説をするメディアが、今も尚、大方を占めている。2024年9月19日付けのガーディアン紙は、「見せかけを変えただけ (The shapeshifter: who is the real Giorgia Meloni?)」⁽⁵⁵⁾との見解を掲載している。

しかし、軌道修正を試み、虚偽を並べたりすれば、支持をしてくれた大衆からメディアに至るまでの反撃や反発もあり得る。メローニ首相が高い信頼性を保っているのは、彼女が変わるのではなく、さり気なく相手側を変えさせて来ているからではないだろうか。

首相に就任してからも、以前からのジョルジャ・メローニと何ら違うところ無く、態度や意見を変えたりしない大衆的なままのメローニ首相であるからこそ、人気が高く、堅調なのだと解説するメディアもある。

また、経済界でも、イタリアの10年物国債利率がフランスのそれを下回る等、政治の安定性が好循環を生んでいる。その背景には、メローニ首相の直言が明快で、判断力が優れていると同時に、彼女を助ける陣容が有能であることが指摘されている。

メローニ首相が「ヨーロッパ最強の人」に選ばれた時とも同期するかのようになり、イギリスの月刊金融経済誌「ザ・バンカー (The Banker)」は、イタリアのジャンカルロ・ジオルゲッティ (Giancarlo Giorgetti) 財務大臣を2025年1月、「2025年の財務大臣 (Finance Minister of the Year 2025)」に選出した。グローバル全域およびヨーロッパ地域で最良の金融財務大臣であるとして、2022年末からのイタリア経済の実績を高く評価している。

また、マリオ・ドラギ (Mario Draghi) 前ヨーロッパ中央銀行総裁の助言も尊重しており、メローニ首相の特質は「慎重な厳正さ」にあるとレクスプレス誌の編集長は社説に記している。⁽⁵⁶⁾

「君を助ける人を裏切るな (non tradire colui che ti aiuta (ne trahis pas celui qui t'aide))」⁽⁵⁷⁾。このイタリアの古^{いにしえ}からの格言を守り、彼女が苦難に満ちた生い立ちを勝ち抜きながら醸成した正義感が、今のメローニ首相を駆り立てているようである。

トランプ大統領の再選以来、世界が押し並べて防衛費増額競争に入ったかの様相である。そんな中で、メローニ首相はトランプ大統領と相性も良いから、さぞかしと考えられているとすれば、実情は真逆である。メローニ首相の就任以来、イタリアの防衛費は対 GDP 比でコンスタントに減少

傾向にある。2024年は対 GDP 比1.49%と1.5%を切る低い数値になると NATO は推定している。これは、NATO 加盟国の中でも。スペイン、カナダに次ぐ低さである。

2025年4月26日付けのジ・エコノミスト誌 (The Economist) は、ローマ発信として「イタリアの防衛費支出は貧弱なもの、ジョルジャ・メローニはウクライナ支援を約束したのに」と報じ、平和主義の長きにわたる伝統とカトリックによる暴力抑制の文化があると解説している。⁽⁵⁸⁾ そのイタリア発の記事は表題が「マルスからではなく (Not from Mars)」と、ローマ神話の戦いの神であるマルスを戴く国らしからぬ、好戦的ではない国イタリアからの報道であるとの皮肉を込めている。

イタリア基盤整備運輸省 (MIT) は2025年8月6日、メッシーナ海峡大橋 (Ponte sullo Stretto di Messina) の建設開始を、メローニ首相出席の下で発表した。⁽⁵⁹⁾ 2032年の完成時には世界最長3,300メートル、二本の主塔の高さ399メートルと世界最高になる予定の大プロジェクトである。数十年間の長期にわたって懸案だった事業にゴーサインを出した訳で、日本企業の IHI も参加予定となっている。が、メローニ政権らしいのは、吊り橋の防衛上のメリットを前面に出して喧伝することで、NATO から建設費補助を受け、自国負担分を防衛費として計上することを交渉させている。イタリアの厳しい財政事情、経済発展の為に投資の必要性和その限界、それらのバランスを図りながらも、米国や NATO からの防衛費増額の要請に真正面に対処しての方針が打ち出されているのである。正に、苦肉の策とも言える防衛費の建設的な平和利用が、如何にもメローニ首相らしく、微笑ましい。ここでも、トランプ大統領顔負けのディール力を発揮している。

彼女の博愛を基調とする世界観は、アフリカ諸国との対等な協調協力戦略であるマッテイ計画 (Piano Mattei, Mattei Plan) に良く反映されている。その計画は、第二次世界大戦後、イタリアの戦後復興を支えたエンリコ・マッテイ (Enrico Mattei) が描いたヴィジョンと地政学的発想から立案されているように観察される。⁽⁶¹⁾

エンリコ・マッテイは1962年10月27日、シシリアを飛び立った自社 ENI 所有のプライベート・ジェット MS.760型機にタイム・ライフ誌のマックハーレ (William McHale) 記者とパイロットの三人で搭乗、ミラノに向かったが、パヴィア上空に差し掛かった地点で謎の事故により56歳で亡くなった。⁽⁶²⁾

この事故の模様を描いた映画作品、「マッテイ事件 (Il Caso Mattei, The Mattei Affair, 日本での初公開時上映名は『黒い砂漠』)」は、1972年開催の第25回カンヌ国際映画祭でパルム・ドールを受賞している。

エンリコ・マッテイは、戦後、イタリアが植民地を総て失ったことを逆に利点として生かし、相互に対等な互惠平等関係をアフリカ・中東諸国と築くことが実質上の敗戦国イタリアにとってだけでなく、世界の未来にとってメリットが大きいと構想し、行動したのだった。

そんなエンリコ・マッテイの考えが、彼の歿後60余年を経て、メローニ首相の主導の下、EU の後押しを受けて世界場裡で生かされようとしていることは心強い。

また、OPEC 加盟の産油国を訪問するメローニ首相への歓迎振りの端々からエンリコ・マッテイへの敬愛と追慕が今も深いことが覗え、イタリアの歴史の重みを感じられる。

7、博愛は姉妹愛と女性だけの家族愛から

～メローニ姉妹が率いる「イタリア兄弟 (Fratelli d'Italia)」党～

ジョルジャ・メローニが未だ三歳の頃、彼女の父は、母、姉、そしてジョルジャの三人の女性を残したまま、スペイン、カナリア諸島のラ・ゴメラ島に逃亡してしまったと言う。

カナリアの海の沖合で、いっそ水平線から消えてくれれば。

彼女ジョルジャの心の傷は、父親が本当に亡くなったよりも、はるかに深かったようだ。むしろ、亡くなっていていれば、空から見守ってくれるよう、期待も出来たろうに。⁽⁶³⁾

その父は、後に、大麻から精製されたハシシイ（大麻樹脂）、1.5トンをヨットに積んで帆走中に逮捕され、9年の禁固刑に処せられている。そんな父が亡くなった折、彼女は全く無感動のままだったと言う。⁽⁶⁴⁾

父が逃亡後、残された女性三人の家庭は母アンナ・パラトーレ（Anna Paratore）⁽⁶⁵⁾によって支えられ、アルバイトと文筆業で生計を立てながらメローニ姉妹を育ててくれたそうである。が、ローマの最貧困街ガルバテラ（Garbatella）に居を移しての生活は大変だったようだ。

2024年の今もガルバテラに残り、ローマ郊外のソーラ市場^{mercato di Sora}で手造りの香り燭^{ろうそく}⁽⁶⁶⁾を売るメローニ首相^{ママ}の母君（“Mamma Meloni”）⁽⁶⁷⁾に「娘さんたち、特にジョルジャは何も言いませんか？」と、フランス・ラジオのマウエ記者が尋ねている。「何も言いません。家に男は居ませんから。私たちは、女だけの家族ですから、みんな、各々が好きなことをしているだけです。」との答えだったと伝えられた。⁽⁶⁸⁾

姉アリアンナとジョルジャ・メローニの二人姉妹は、音叉が共振するように波長が合い、ジョルジャにとって2016年に自分の娘ジネーブラが生まれるまでは、最愛で最も大切な人が姉アリアンナであったとジョルジャは述懐している。

その姉アリアンナは2023年から、妹のジョルジャ・メローニが党首を務める^{フラテッリ ディタリア} Fratelli d'Italia（イタリア兄弟党；FDI）の書記長として妹ジョルジャを補佐しながら、党を率いる役割の一翼を担っている。

二人の姉妹がトップを占める党名の^{フラテッリ ディタリア} Fratelli d'Italia は「イタリアの兄弟」の意味であり、日本のように党名に「党」と付けて呼ばないので、普段は略称の FDI ないし FdI、あるいは字句どおりとすれば「イタリアの兄弟」、もしくは「イタリア兄弟」と呼ばれていることになる。英語では Brothers of Italy、ドイツ語では Brüder Italiens（italienisch Brüder）、フランス語では Frères d'Italie と訳されることが多い。

つまり、周辺に実在する肉親や血縁の兄弟、あるいは教会や秘密結社の関係者がイメージされることになる。特に、コルシカのように、お互いを^{フラテッリ} Fratelli と呼び合う或る結社のメンバーの人口が100人中1人と少なからぬ地域では、「兄弟」の意味するところは複雑である。また、そうでなくても、肉親や血縁の兄弟の関係そのものからして、文化人類学や社会学、小説や演劇等々の格好の題材となる複雑な^{しろもの}代物でもあるのが「兄弟」なのだ。

「兄弟愛」と聞いて、きれい事との胡散臭さを感じる向きもあるのではなかろうか

旧約聖書『創世記』第4章に述べられているカインとアベル兄弟の物語をどのように受け止めるのかの課題でもある。

イタリアの2022年の総選挙で ^{フラテッリ ディタリア}Fratelli d'Italia（イタリア兄弟党；FDI）優勢との速報が報じられた当時、フランス24放送はメディア・レビューを行う定時ニュース番組で、「フラテッリ・ディタリアって何、それって名前なの？（“De quoi les “Fratelli d'Italia” sont-ils le nom ?”）」⁽⁷⁰⁾と題して、フランス、イギリス、アメリカ等々のメディアが戸惑っている様相を伝えた。特にフランスでは、^{フラテッリ ディタリア}Fratelli d'Italia の党名からして、どう訳して良いのか判らないという混乱振りだったのである。

対象となるものを、正確に名付けないことが世の中の不幸を招いていると指摘したのはアルベール・カミュだが、適切で無い名付けや誤訳、更には虚偽や知的な不正直さがもたらす災禍は大きい。

しかし、意味や訳は不確かでも、音そのものの「フラテッリ・ディタリア（Fratelli d'Italia）」⁽⁷¹⁾は、イタリアに留まらず、世界中の人々の聴覚を通じて記憶として残っている可能性は高い。オリンピックやワールドカップで、イタリア国歌が演奏され、歌われる機会は少なくない。「フラテッリ・ディタリア（Fratelli d'Italia）」で歌い始められ、繰り返されるリフレインの冒頭は必ず「フラテッリ・ディタリア（Fratelli d'Italia）」となっている。

1847年、ゴッフレード・マメーリ（Goffredo Mameli）によって作詞され、ミケーレ・ノヴァーロ（Michele Novaro）が作曲した「フラテッリ・ディタリア（Fratelli d'Italia）」と始められる曲は、ほぼ一世紀後の1946年に成立したイタリア共和国により暫定的に国歌のように扱われ、2017年によりやうく上院を通過して国歌として定められている。

作詞をしたマメーリは、その作詞から2年後、未だ^{はたち}二十歳過ぎの学生だった1849年、外国軍への抗議運動に参加中、フランス兵により殺害されている。「フラテッリ・ディタリア（Fratelli d'Italia）」は、マメーリが、イタリアの統一と独立の為に、フランスやオーストリアと闘う学友たちに命をかけて呼びかけた言葉である。イタリア統一運動（^{リソルジメント}Risorgimento）の第二段階を偲ばせる曲となっている。

ちなみに、イタリアの第2の国歌とも呼ばれる「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って（Va, pensiero, sull'ali dorate）」は、ヴェルディの作曲によるオペラ『ナブッコ』第三幕終盤に挿入された合唱曲の冒頭となる第1行目だが、バビロニア王ナブッコの治めるユーフラテス河畔で、ナブッコの虜囚に^{おとし}貶められているヘブライの人々の祖国への想いを乗せて歌われる。

1842年、ミラノ・スカラ座での初演時、その歌の第7行目になって「おお、あれほど美しく、失われた故郷！（Oh, mia patria sì bella e perduta!）」⁽⁷²⁾と合唱される場面では、オーストリアやフランスの支配に苦しむ夢想上の故国（その頃は、統一されたイタリアは未だ無い）への思いに涙する聴衆の感激が大きく、イタリア統一運動の第一段階を象徴する曲となったと言われる。

ロミー・シュナイダー（Romy Schneider）主演のオーストリア映画『シシィ（Sissi）』⁽⁷³⁾で、エリザベート皇后がミラノのスカラ座に臨席した情景が描かれた。歓迎のオーストリア国歌に代わって、レジスタンスを示すような「行け、我が思いよ…」の曲が演奏されてしまう緊迫した場面であ

る。演奏後、恐懼で静まりかえった中で、エリザベート皇后が一人拍手をされ、フランツ・ヨーゼフ I 世や聴衆もそれに習って拍手の波が広がった。このシーンが史実か否かは別にして、当時の状況を彷彿とさせるのは確かである。

この『ナブッコ』を熱烈に愛した一人がムッソリーニで、ヴェルディの音楽そのものへの傾倒もさることながら、ヘブライの人々（古代イスラエル人 ≡ ユダヤ人）の祖国への思い、愛国心を共有し、統一されて間もないイタリアの地盤固めを期して『ナブッコ』の復活再演に注力した。⁽⁷⁴⁾ 第三帝国の誰かとの違いは大きい。聖書の詩編137にあるとおり、「バビロンの流れのほとりに座り シオンを思って、わたしたちは泣いた」⁽⁷⁵⁾と、遠い祖国を偲ぶヘブライの人々の想いが合唱されているのである。

FDI はジョルジャ・メローニが2012年12月28日に三名共同の一人として設立した政党であるが、設立して1年2ヶ月後の2014年3月8日には単独のトップとなった。

そして、FDI が与党の中樞を占めると、姉アリアンナも書記長として、姉妹で FDI を率いるようになっている。

姉妹が率いる党なのに、「兄弟」の党？

しかし、こんな疑問は野暮ってものなのであろう。

FDI 設立から五年後、イタリアの国歌は正式にマーメリ作詞の「フラテッリ・ディタリア (Fratelli d'Italia)」となったことは、先に述べた。

今では、「フラテッリ」なる呼びかけは兄弟や戦友を超えたイタリア人あるいはイタリア国民のような響きを持つようになっているのかも知れない。

「君が代」を国歌として抱く日本人が、「君が代党」のような党名の与党と接する場合の「君が代」をイメージすれば、今のイタリアの人々が党名「フラテッリ・ディタリア (Fratelli d'Italia)」から受ける印象を想定出来るのかも知れない。

「フラテッリ・ディタリア (Fratelli d'Italia)」の意味するところが、「イタリアの兄弟」のような狭い意味で無く、国歌を共に歌う「イタリアの国民」であるとしたら、半分は男で、半分は女である。男女何れかに傾く言葉では無いと考えられなくもない。

ジョルジャ・メローニが3歳の時、父は妻と娘二人を棄て、大西洋上の島に逃げてしまった。しかし、幼少時はともかく、11歳になったジョルジャは再び父と会うことは無いと決意する。さよならを言うのは、「チャオ・パパ (Ciao Papa)」と言うのはジョルジャの側、切って捨てるのは自分の側だと上を向く彼女に勝る男はいなくなったのである。⁽⁷⁶⁾

以来、優れた者が勝つ世界である以上、粉碎し、勝ち抜くのは自分だ、との確信で生き抜いて来たのだ。

だからこそ、首相とかの敬称で呼ばれ、敬語で話しかけられる必要はない。ジョルジャと呼びかけてもらいたいと繰り返し、自分も下町訛りで話すから、みんなも普段の言葉で話しかけて欲しいと訴える。そのような庶民性が、彼女を支える基盤となっていることを、彼女自身が良く判っている。

るからであろう。

また、父は関係ないと言い切っているジョルジャ・メローニではあるが、彼女の父方の祖母で女優・声優だったゾエ・インクロッチ（Zoe Incrocci）の血を継承していることに注目するイタリア、スペイン、フランス等のメディアがある。⁽⁷⁸⁾一例として、祖母が1938年、ローマ芸術劇場でジャンヌ・ダルク⁽⁷⁹⁾を演じた姿、声の質感、発声の迫力から血脈を感じさせられると言う。

なお、FDIのスローガンである「神、祖国、家族（Dio, Patria e Famiglia）」がムッソリーニの踏襲との批判に対しては、イタリア統一運動の立役者の一人であるジュゼッペ・マッツイーニ（Giuseppe Mazzini）由来のイタリアの伝統を踏まえたモットーであるとしている。

そのスローガンの一つにある「家族」について、ジョルジャ・メローニ自身は結婚をしていないのに「家族」を守っているとは言えるのかとの記者会見での問いには、愚かな質問だと一蹴している。それは、若いと年寄りの問題が大切に思えないと決めつけているようなものと答えている。

「私はジョルジャ！私は女性。私は母親で、イタリア人で、キリスト教徒」と、2019年ローマでの集会で訴えた姿は迫力があつた。

人権宣言にある「人（l'Homme / l'homme）」とは当初は「男」とも考えられていたものが、今では男女両者を等しく包摂するとの解釈が常識化したように、両者に差を設ける考えが消滅して行くのかも知れない。

8、「博愛」の貴重性と昭憲皇太后

～ひろやかな愛は世界に優しい平和をもたらす～

「博愛」とは、「ひろく愛すること。平等に愛すること。」⁽⁸⁰⁾と、広辞苑（第六版）に記述されていることは既に紹介した。

しかし、逆に「ひろく愛すること。平等に愛すること。」を簡潔に表現する言葉がフランス語や英語等にあるのだろうかを検討してみると、意外なことに、ぴったり当てはまるものは見当たらないのである。

本稿では、「博愛社」設立の切っ掛けとなったかに思われる赤十字の活動に拘わった各国の「博愛」を巡る過程を遡ることからはじめ、フランスの Liberté, Égalité, Fraternité（自由、平等、博愛）の三連語（triptyque）の Fraternité を巡る動きを追い、また Fraternité に代替するべきかとも考えられる Adelphité を探求してみた。しかし、Adelphité の意味からしても、所詮、兄弟姉妹愛の意味に留まっている概念である。

聖フランチェスコとフランチェスコ教皇による「みんな兄弟（Fratelli Tutti ; Tutti Fratelli）」あるいは「ユニヴァーサル / コスミックな兄弟愛」との提唱とも出会うことになった。しかし、「博愛」ように「ひろく愛すること。平等に愛すること。」を言い表せる表現には簡単には出会えな

い。

「博愛」とは、垣根の無い、ひろい視野から見る融通無碍の世界に拡がっている言葉なのである。

更には、旧来の植民地支配の歴史的認識に真っ向から挑戦し、そのリーダーシップがヨーロッパ筆頭とも注目されるメローニ首相あるいはメローニ姉妹が率いる「イタリアの兄弟 (Fratelli d'Italia)」党の志向する兄弟姉妹愛、祖国愛から博愛 (Fratelli universali ; La fraternité universelle) に至る道程を探ってみた。そこでは、兄弟姉妹愛、祖国愛を実現して行く過程に於ける、ジョルジャ・メローニ首相の男性優位を逆手に取ってリードして行く個人の素晴らしさを垣間見ることが出来た。

しかし、兄弟姉妹、男女、年齢、人種、宗教、国籍、階級による差別の無い、みんなを一体として結ぶ連帯を育み育まれる愛としての「博愛 (博愛)」に相当する簡潔な表現は、漢字文化圏を除くと意外なほど稀少なように想われる。

ところで、「仁慈、博愛、謙讓 (中略) のかがみと仰がれており (中略) 博愛、慈善の事業については、きわめて大きな役割をお果たしになりました⁽⁸¹⁾」と、明治神宮の案内は昭憲皇太后について記している。

その昭憲皇太后の御歌から一首を拝読してみよう。⁽⁸²⁾

世の中の生きとし生けるものみなに及ぶは君が恵なりけり

この御歌で、「君」と詠まれているのは明治天皇であることは明らかなが、それはあくまでも御歌を詠まれた昭憲皇太后御自身におかれての話であって、その思いを他の人々に強制されている訳ではない。大切なのは、「世の中の生きとし生けるものみなに、及ぶ恵」に想いを致すことにある。

この御歌の読者にとっての「君」は様々多様であって良い。神や仏、身近な誰か、あるいは遠い人、ないしは個々人の信条でも、自分にとって大切な動植物でも良いのである。「空の鳥、野の花」を含む、同じ地球で共にすむ生きとし生けるもの皆、あるいはそんな皆を見守ってくれる星々や太陽、月でも良いのだ。

読み手である各人が「〇〇の恵である」と感謝の思いを抱く対象は、各人次第なのだ。肝心なのは、「〇〇の恵である」と、優しい気持ちになれば、愛することが出来れば良いのである。

フランス共和国憲法に制定される三連語である、自由、平等、博愛の内、博愛だけが義務と考えられ、自由と平等は権利と考えられる基本的な理由がそこにある。

愛することは義務であるが、その対象を自由かつ平等に選択する権利が各人にある。各人は、その選択の権利行使には自己責任を伴うことを認識しながら、愛の対象を選べば良いのだ。但し、自己が選んだ、その対象を自分以外に強要することは博愛の精神を支える優しさに反する。何故なら、自由はすべての人々に平等なのだから。

義務としての博愛に対して、権利としての自由と平等に基づいて各人がチェック機能を働かせる責任を負っていることを肝に銘じておかなければいけない。

そこで、昭憲皇太后の御歌の中の〇〇を、各人流に詠んでみよう。

世の中の生きとし生けるものみなに及ぶは〇〇が恵なりけり

〇〇が誰あるいは何であるかを具体的に口に出すか出さないかはさておき、みんながお互い自由を選んだ〇〇を尊重し会うことが出来れば、そこに優しい博愛が生まれて来る。

博愛社を継承した日本赤十字社は、日露戦争期をはじめ、博愛の精神を遵守尊重することにより誇るに足る輝かしい実績を挙げてきている。が、八紘一字のような標榜の下に、博愛の大切さに陰りを生じさせた残念な時期もあった。

地球という惑星に共存している皆（みんな）が共榮し「世の中の生きとし生けるものみな」との、平和な連帯を望んでいることを忘れてはならない。

昭憲皇太后が桐竹鳳凰文により赤十字を飾ることで、十字架を受容することを示唆された優しい博愛の想いから推定すれば、「皆の〇〇は皆違って皆が良い」と是認されるのではなかろうか。

博愛は皆（みんな）^{T u t t i}の世界に優しい平和をもたらしてくれる。

なお、脚注に付したウェブ等の参照日時は、特に記載の無い限り、2025年10月1日から2026年1月22日23:00JST にかけてのものである。

また、広辞苑等に記載された漢数字による年号表記に関しては、時宜に応じ、漢数字をアラビア数字に代替、必要に応じ「年」を付加して表記した部分もある。

- (1) Henri Dunant, Un souvenir de Solférino (Deuxième édition), Genève, Joel Cherbuliez (Libraire), 1862.
(第二版 = 最初の市販版、ジュネーブ大学公開分)
<https://athena.unige.ch/athena/dunant/dunant-un-souvenir-de-solferino.html>
Henri Dunant, Un souvenir de Solférino, Genève, imprimerie Jules-Guillaume Fick, 1862. (初版 = 当初の自費印刷配布版)
<https://archive.org/details/unsouvenirdesol00dunagoog/page/n7/mode/2up>
- (2) Comité International de la Croix-Rouge
<https://www.icrc.org/fr>
- (3) Convention de Genève du 22 août 1864 pour l'amélioration du sort des militaires blessés dans les armées en campagne. Genève, 22 août 1864.
<https://ihl-databases.icrc.org/assets/treaties/120-DIH-GC-1864-FR.pdf>

Convention for the Amelioration of the Condition of the Wounded in Armies in the Field. Geneva, 22 August 1864

<https://ihl-databases.icrc.org/en/ihl-treaties/gc-1864/state-parties>

- (4) ART. 7. - Un drapeau distinctif et uniforme sera adopté pour les hôpitaux, les ambulances et les évacuations. Il devra être, en toute circonstance, accompagné du drapeau national. Un brassard sera également admis pour le personnel neutralisé, mais la délivrance en sera laissée à l'autorité militaire. Le drapeau et le brassard porteront croix rouge sur fond blanc. *ibid.*

- (5) Le signe de la croix rouge.

<https://international-review.icrc.org/sites/default/files/S1026881200172265a.pdf>

“la croix étant la croix de crucifixion et le sang celle de Jésus Christ. L'origine réelle de la croix reste cependant en suspend car elle n'est pas encore totalement définie par l'histoire”

<https://lesplusbeauxdrapeauxdumonde.com/2017/04/23/drapeau-de-la-suisse/>

Il y a 140 ans, pour la première fois, était utilisé un « croissant rouge sur fond blanc », 15/03/2016.

<https://blogs.icrc.org/hdtse/2016/03/15/il-y-a-140-ans-pour-la-premiere-fois-etait-utilise-un-croissant-rouge-sur-fond-blanc/>

現在では宗教色の無い保護標章としてレッドクリスタル（赤色結晶）も採用されおり、また複数の宗教色を反映した標章が使用されている。

- (6) Lucas Vuilleumier ; Le symbole de croix qui orne le drapeau suisse est une référence à la croix du Christ, 6 août 2022, Chrétiens de Suisse.

<https://chretiens.com/chretiensdumonde/chretiens-de-suisse/le-symbole-de-croix-qui-orne-le-drapeau-suisse-est-une-reference-a-la-croix-du-christ-2/2022/08/06/00/02/>

- (7) Carré, rouge et chargé d'histoire : les secrets du drapeau suisse, modifié le 25 mai 2025.

<https://www.rts.ch/info/suisse/2025/article/le-drapeau-suisse-carre-histoire-et-particularites-d-un-symbole-national-28889591.html>

- (8) 小菅信子；日本赤十字社と皇室 ― 博愛か報国か、吉川弘文館、2021、181pp.

- (9) 新村出編；広辞苑（第六版総革装）、岩波書店、2009、p.2234.

（暦年の表記に関しては、漢数字をアラビア数字に代替、必要に応じ「年」を付加した。）

- (10) “L'Église accepte alors cette triade comme un concentré de valeurs chrétienne : les prêtres célèbrent la fraternité en Christ et bénissent les arbres de la liberté.”

<https://www.elysee.fr/la-presidence/liberte-egalite-fraternite>

- (11) Après Liberté-Parité-Sororité, c'est autour de Liberté-Egalité-Adelphité qu'il va falloir ensemble écrire et inventer.

<http://chloedelaume.net/?cat=24>

https://remue.net/IMG/pdf/18-01-09_liberte_parite_sororite_2-compressed.pdf

- (12) “Liberté, égalité, sororité” : Ségolène Royal a célébré à sa manière la Journée des femmes.

“Sororité”, c'est-à-dire solidarité entre femmes, l'équivalent féminin de la fraternité.

https://www.lemonde.fr/societe/article/2007/03/08/liberte-egalite-sororite-segolene-royal-a-celebre-a-sa-maniere-la-journee-des-femmes_880431_3224.html

- (13) Japan's New Prime Minister Sanae Takaichi Gets a Warm Reception at ASEAN Summit in Malaysia | N18G, CNBC-TV18, CNBC-TV18.
<https://youtu.be/sVQp0gR3gzY>
- (14) Clément Martel ; Au Japon, le ring de sumo reste inaccessible aux femmes, même à la première ministre, le 23 novembre 2025 à 17h54, modifié le 24 novembre 2025 à 01h35
https://www.lemonde.fr/sport/article/2025/11/23/au-japon-le-ring-de-sumo-reste-inaccessible-aux-femmes-meme-a-la-premiere-ministre_6654561_3242.html
 Au Japon, le sumo restera-t-il inébranlable face à la première femme Premier ministre ? 14/11/2025 - 10 :18 Modifié le : 14/11/2025 - 11 :26.
<https://www.rfi.fr/fr/sport/20251114-le-sumo-japonais-restera-t-il-in%C3%A9branlable-face-%C3%A0-la-premi%C3%A8re-femme-premier-ministre>
 Sidonie Rahola-Boyer ; Japon : la première ministre va-t-elle braver la tradition en remettant le trophée d'un tournoi de sumo ? Le 14 novembre 2025 à 12h02.
<https://www.lefigaro.fr/international/la-premiere-ministre-japonaise-bravera-t-elle-l-interdiction-des-femmes-dans-le-sumo-20251112>
- (15) G7 and European Leaders Discuss Ukraine Plan on Margins of G20 | Meloni Meets Takaichi | N18G, CNBC-TV18. <https://youtu.be/syC9sjn53uY>
- (16) Women's Political Power Faced A Fractured Year In 2025
<https://www.forbes.com/sites/erinspencer1/2025/12/10/womens-political-power-faced-a-fractured-year-in-2025/>
- (17) Global Gender Gap Report 2025.
https://reports.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2025.pdf
- (18) Maïlis Rey-Bethbeder ; Marre de la fraternité et de la sororité ? Essayez l'adelphité.
<https://www.elle.fr/Societe/News/Marre-de-la-fraternite-et-de-la-sororite-Essayez-l-adelphite-3926229>
 Pourquoi employer les mots "adelphe" et "adelphité" ? le 15 mars 2021 à 19 :16, Terrafemina.
https://www.terrafemina.com/article/adelphe-quelle-est-la-signification-d-adelphe-et-adelphite_a357423/1
- (19) Magazine de mode créé par les femmes pour les femmes
<https://www.elle.fr/>
- (20) <https://www.elle.fr/Societe/News/Marre-de-la-fraternite-et-de-la-sororite-Essayez-l-adelphite-3926229>
- (21) Philadelphie : – « Qui aime son frère ou sa sœur » (Littré)
<https://www.cnrtl.fr/definition/-adelphe>
- (22) 聖書 新共同訳、ペトロの手紙 一2.17および一5.9、日本聖書協会、1989、pp. (新) 428-435、特に (*Nota Bene*) p.430.
- (23) Michel Meslin ; La vie quotidienne des premiers chrétiens, in L'Histoire 227, décembre 1998.
<https://www.lhistoire.fr/la-vie-quotidienne-des-premiers-chr%C3%A9tiens>
- (24) https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/6/6e/Francisco_de_Zurbar%C3%A1n_039.jpg
- (25) "François défendait la fraternité" : les bénévoles qui hébergent les migrants saluent la mémoire d'un

“pape au grand cœur”

<https://france3-regions.franceinfo.fr/provence-alpes-cote-d-azur/hautes-alpes/briancon/francois-defendait-la-fraternite-les-benevoles-qui-hebergent-les-migrants-saluent-la-memoire-d-un-pape-au-grand-c-ur-3142502.html>

- (26) Saint-Père François ; Lettre encyclique Fratelli Tutti sur La Fraternité et L’Amitié Sociale, 2020.

https://www.vatican.va/content/francesco/fr/encyclicals/documents/papa-francesco_20201003_enciclica-fratelli-tutti.html

- (27) Sr Bernadette Mary Reis; Pope signs new Encyclical “Fratelli tutti” on St Francis’s tomb in Assisi, 3 October 2020, 16:00.

On the anniversary of St Francis of Assisi’s death, Pope Francis celebrates Mass before the Saint’s tomb and signs his Encyclical “Fratelli tutti”.

<https://www.vaticannews.va/en/pope/news/2020-10/pope-assisi-signs-encyclical-fratelli-tutti.html>

- (28) https://www.vatican.va/content/dam/francesco/pdf/encyclicals/documents/papa-francesco_20201003_enciclica-fratelli-tutti_ja.pdf

- (29) Le Saint-Père choisit donc un lieu très solennel, très significatif pour parapher ce texte : Assise, la ville du *Poverello* dont il a pris le nom comme Pape, et qui prêchait cette fraternité « *cosmique* », universelle, unissant toutes les créatures de Dieu, unique père de tous.

<https://www.vaticannews.va/fr/pape/news/2020-09/pape-francois-assise-3-octobre-signature-encyclique-tous-freres0.html>

- (30) Giorgia Meloni, la présidente du conseil des ministres, a pour sa part salué « un acte d’amour pour l’Italie et pour son peuple ». Elle rejette l’idée d’un « gaspillage d’argent » - les critiques ayant évoqué l’enveloppe de 10,6 millions d’euros prévue pour compenser policiers, médecins et fonctionnaires assurant la continuité des services publics

Charlotte de Frémont ; Pourquoi la Saint-François-d’Assise devient un jour férié en Italie, La Croix, le 8 octobre 2025 à 18h04.

<https://www.la-croix.com/international/pourquoi-la-saint-francois-d-assise-devient-un-jour-ferie-en-italie-20251008>

- (31) “Buona festa di San Francesco!” <https://youtu.be/6AIkmkg3q2w>

Cerimonia per la festa di San Francesco, l’intervento del Presidente Meloni, Sabato, 4 Ottobre 2025, Governo Italiano Presidenza del Consiglio dei Ministri.

<https://www.governo.it/it/articolo/cerimonia-la-festa-di-san-francesco-lintervento-del-presidente-meloni/29950>

- (32) 4 octobre : Saint François d’Assise, Patron de l’Italie, octobre 4, 2025.

<https://www.vaticanstate.va/fr/etat-et-gouvernement/notes-generales/saint-du-jour/1096-4-ottobre-san-francesco-d-assisi-patrono-d-italia.html>

- (33) “« célébrer et promouvoir les valeurs de paix, de fraternité, de protection de l’environnement et de solidarité » incarnées par le saint. ”

Pendant ce temps-là, l’Italie de Meloni crée un nouveau jour férié

<https://youtu.be/541QyW4nBP8>

- (34) En Italie, le président de la République Sergio Mattarella a promulgué mercredi 8 octobre la loi instaurant la Saint-François-d'Assise comme un nouveau jour férié.

<https://www.la-croix.com/international/pourquoi-la-saint-francois-d-assise-devient-un-jour-ferie-en-italie-20251008>

- (35) Le nouveau jour férié de Meloni : elle réussit car elle sait gouverner

<https://reinformation.tv/nouveau-jour-ferie-meloni-vite/>

- (36) « Dans une époque de division, François unit », assure le centre droit italien à l'heure de faire voter un projet de loi qui recevra également le soutien de l'opposition parlementaire. Pas question de laisser le symbole du saint patron de l'Italie à Meloni et à ses alliés ou de s'attirer les foudres des travailleurs transalpins, a-t-on probablement calculé dans les rangs de la gauche.

https://www.lepoint.fr/monde/pendant-ce-temps-la-l-italie-de-meloni-cree-un-nouveau-jour-ferie-25-09-2025-2599543_24.ph

- (37) Saint Francis was extreme, but not an extremist. He set an example of poverty but not one of destitution, which was something he and his brothers always fought against.

<https://www.governo.it/en/articolo/president-meloni-s-speech-ceremony-feast-day-saint-francis/29965>

- (38) « Le 4 octobre ne sera pas qu'une simple date sur le calendrier. Ce sera le jour où l'Italie se souviendra, une fois de plus, qu'elle est une terre dotée d'une tradition, d'une foi et d'une âme que nul ne pourra jamais effacer », promettait ainsi la députée des Frères d'Italie.

ibid.

- (39) Le 15 juillet dernier, François Bayrou annonçait la suppression de deux jours fériés l'an prochain dans le cadre de son projet de budget 2026. Une mesure désormais décriée par 84% des Français.

https://www.franceinfo.fr/economie/budget/suppression-de-deux-jours-feries-plus-de-huit-francais-sur-dix-y-sont-opposes_7455439.html

- (40) François Bayrou prêt à renoncer à la suppression de deux jours fériés, sous condition de propositions alternatives

<https://www.publicsenat.fr/actualites/politique/francois-bayrou-pret-a-renoncer-a-la-suppression-de-deux-jours-feries-sous-condition-de->

- (41) Interview Sébastien Lecornu : « J'ai décidé de retirer la suppression de deux jours fériés », Le Dauphiné Libéré, 13 sept. 2025 à 17 :45.

<https://www.ledauphine.com/politique/2025/09/13/sebastien-lecornu-j-ai-decide-de-retirer-la-suppression-de-deux-jours-feries>

- (42) Arthur Goldhammer : "Emmanuel Macron partira avec peu de réalisations à son actif"

<https://www.lexpress.fr/idees-et-debats/arthur-goldhammer-harvard-emmanuel-macron-partira-avec-peu-de-realizations-a-son-actif-FQAGUZQIORCYFGP3OF4EWQGVOI/>

- (43) However, she refused calls to remove MSI's tricoloured flame from the Brothers of Italy logo and maintains the fascist motto, "God, family, fatherland"

<https://www.theguardian.com/world/2022/sep/17/giorgia-meloni-brothers-of-italy-leader-far-right->

elections-alliance-

- (44) Catholique, de droite et libérale : la méthode gagnante de Giorgia Meloni en Italie

En un peu plus de deux ans et demi au pouvoir, la présidente du Conseil italien s'est imposée comme la figure centrale de la politique transalpine. Sa courbe de popularité reste haute et les sondages favorisent son parti.

<https://www.lefigaro.fr/international/catholique-de-droite-et-liberale-la-methode-gagnante-de-giorgia-meloni-en-italie-20250613>

- (45) Meloni n'en finit pas de faire la leçon à Macron, mais, au point où il en est, c'est toute la droite nationale française qui devrait méditer l'exemple de Meloni, d'autant plus qu'elle multiplie les signes de complicité, comme le week-end dernier, avec Marion Maréchal.

<https://www.bvoltaire.fr/a-contre-courant-de-macron-meloni-introduit-un-nouveau-jour-ferie-catholique/>

- (46) Meloni is the most powerful person in Europe in 2025, Politico ,12 December 2024.

<https://www.politico.eu/list/politico-28-class-of-2025/giorgia-meloni/>

- (47) Giorgia Meloni, élue personnalité la plus puissante d'Europe par "Politico", Courrier international, le 11 décembre 2024 à 18h57.

https://www.courrierinternational.com/article/italie-giorgia-meloni-elue-personnalite-la-plus-puissante-d-europe-par-politico_225560

- (48) Jeremy Barr : Politico sold to German publisher Axel Springer, The Washington Post, August 26, 2021.

<https://www.washingtonpost.com/media/2021/08/26/politico-sold-axel-springer/>

- (49) Vance observed that she (Meloni) has two qualities that he believes make her a strong diplomatic partner

<https://www.nbcnews.com/politics/jd-vance/vance-cultivate-pope-new-diplomatic-partner-us-rcna20776>

- (50) "Karin Keller-Sutter à propos de J. D. Vance : « C'était un discours libéral, dans un certain sens très suisse »"

<https://www.efd.admin.ch/it/interview-brkks-letemps-150225-it>

- (51) Immigration : le mirage italien, in L'Express, 18 septembre 2025, p.20

- (52) President Meloni's speech at the Gulf Cooperation Council Summit, Italian Government Presidency of the Council of Ministers, 3 December 2025.

<https://www.governo.it/en/articolo/president-meloni-s-speech-gulf-cooperation-council-summit/30494>

<https://youtu.be/82wWGCsTXUQ>

- (53) 'You are the best': PM Narendra Modi meets Italy's Giorgia Meloni at G7 Summit, video goes viral.

<https://www.hindustantimes.com/india-news/you-are-the-best-pm-narendra-modi-meets-italys-giorgia-meloni-at-g7-summit-video-goes-viral-101750239549213.html>

- (54) Giorgia Meloni ; Due Nazioni lontane, ma sempre più vicine. Amicizia e sintonia con @takaichi_sanae ITJP.

<https://www.instagram.com/p/DTj0ggUkYmj/>

Il selfie, la torta, il brindisi di compleanno. L'incontro tra Meloni e Takaichi a Tokyo, Vista Agenzia Televisiva Nazionale, Tokyo, 16 Gennaio 2026.

<https://youtu.be/bOLVUTrJVvQ>

Italy Prime Minister, Giorgia Meloni poses with Japanese prime Minister Takaichi Sanae, Shares Ghibli-style photo on X, cnnnews18, 2026年1月16日 .

<https://www.instagram.com/p/DTkL7apiE0D/>

Giorgia Meloni serenaded by Japanese prime minister for her birthday, The Independent, 2026/01/17.

<https://youtu.be/CIxDDAKTJ54>

Sweet Send-Off! - Japanese PM Takaichi Bids Farewell to Meloni with Unexpected Birthday Party | N18G, 2026/01/18.

<https://youtu.be/7gRbULenXK8>

- (55) Alexander Stille; The shapeshifter: who is the real Giorgia Meloni? , The Guardian, 19 Sep 2024.

<https://www.theguardian.com/world/2024/sep/19/shapeshifter-who-is-the-real-giorgia-meloni-italy-prime-minister>

- (56) Eric Chol : Giorgia Meloni. ou la rigueur discrète, L'ÉDITO, L'Express, 18 septembre 2025, p.8.

- (57) Luc de Barochez ; Giorgia Meloni, les dessous d'un essor eurpéen, L'Express, 18 septembre 2025, pp.16-17.

- (58) "Italy.-Not from Mars. Rome. -Its defense spending is puny, despite Giorgia Meloni's support for Ukraine", "Italy has a longer tradition of pacifism, (==) and a culture heavily influenced by Catholic strictures on the use of violence.", The Economist, April 26th 2025, pp.41-42.

- (59) Pont du détroit de Messine : le CIPRESS approuve le projet final, 6 août 2025.

<https://www.mit.gov.it/comunicazione/news/ponte-sullo-stretto-il-cipress-approva-il-progetto-definitivo>

- (60) 石川島播磨重工業は2007年7月1日、その英訳社名の略称である「IHI」に社名を変更している。

https://www.ihico.jp/en/all_news/2025/infrastructure/1201610_13739.html#:~:text=The%20Project%20involves%20the%20construction,air%2C%20and%20water%20transport%20systems.

- (61) 'The Mattei Plan for Africa and the Global Gateway: A common effort with the African Continent' Summit, 20 June 2025.

<https://www.governo.it/en/articolo/mattei-plan-africa-and-global-gateway-common-reffort-african-continent-summit/29040>

https://www.policycenter.ma/sites/default/files/2025-08/PB_38-25_%20%28Abdessalam%20Jaldi%20%26%20Alessandro%20Cercaci%20%29.pdf

- (62) Volandia Park and Flight Museum to Receive Historic Morane-Saulnier MS.760 Jet Tied to Enrico Mattei Tragedy

<https://vintageaviationnews.com/aviation-museum-news/volandia-park-and-flight-museum-to-receive-historic-morane-saulnier-ms-760-jet-tied-to-enrico-mattei-tragedy.html>

- (63) "C'est peut-être une blessure plus profonde qu'un père qui meurt, parce que dans ce cas-là tu peux espérer qu'il te regarde depuis le ciel, alors que s'il s'en va tu es obligée de faire face à son fantôme", 28

septembre 2022.

https://www.challenges.fr/monde/la-politique-une-affaire-de-famille-pour-giorgia-meloni_829500

Giorgia Meloni ; Io sono Giorgia : Le mie radici le mie idee, Rizzoli, 2024, 336pp.

- (64) Agathe Mahuet ; « Giorgia Meloni » Épisode 3/5: Ciao Papa

<https://www.radiofrance.fr/franceinfo/podcasts/ces-destins-qui-font-l-info/ces-destins-qui-font-l-info-du-dimanche-16-novembre-2570047>

- (65) Agathe Mahuet ; « Giorgia Meloni » Épisode 1/5 : le récit de la mère chrétienne italienne.

https://www.franceinfo.fr/replay-radio/ces-destins-qui-font-l-info/giorgia-meloni-1-5-le-recit-de-la-mere-chretienne-italienne_7578757.html

- (66) La mère de Giorgia Meloni au marché de Sora : un stand présentant ses créations en cire.

https://roma.repubblica.it/cronaca/2024/10/15/news/mamma_giorgia_meloni_anna_paratore_mercatino_sora_banchetto_candele-423556162/

- (67) La mamma di Giorgia Meloni al mercatino di Sora, la Repubblica, 15 oct. 2024.

https://roma.repubblica.it/cronaca/2024/10/15/news/mamma_giorgia_meloni_anna_paratore_mercatino_sora_banchetto_candele-423556162/

- (68) “Elles ne disent rien, rétorque-t-elle. Chez nous chacune fait ce qui lui plaît. Et vous savez, nous sommes désormais une famille de femmes. Il n’y a plus d’hommes à la maison. Nous sommes toutes des femmes libres. Alors si nous avons envie de faire quelque chose, nous le faisons.”

ibid.

- (69) « près de 1 Corse sur 100 est franc-maçon », Corse : l’île des Fratelli, L’Express, 13 mars 2009.

https://www.lexpress.fr/politique/corse-l-ile-des-fratelli_746574.html

« L’amour fraternel qui est la base, la pierre angulaire, le ciment et la gloire de notre confrérie. »

« C’est ainsi que les francs-maçons ont contribué à l’abolition de l’esclavage et au vote de lois sociales comme les congés payés. »

<https://www.lavie.fr/dossiers/fratries/pourquoi-les-francs-macons-sappellent-ils-freres-entre-eux-9681.php>

- (70) “De quoi les “Fratelli d’Italia” sont-ils le nom ?”, France 24 la Revue de presse (du lundi au vendredi, à 7h20 et 9h20 heure de Paris), 27/09/2022.

<https://www.france24.com/fr/%C3%A9missions/dans-la-presse/20220927-de-quoi-les-fratelli-d-italia-sont-ils-le-nom>

- (71) cf. Fratelli d’Italia, <https://youtu.be/PxBUMt64V64?list=RDPxBUMt64V64>

- (72) cf. Nabucco: Va pensiero, Coro e Orchestra del Teatro dell’Opera di Roma, Riccardo Muti, Teatro Costanzi, luglio 2013.

<https://youtu.be/MBYmhYxEvUM?list=RDMBYmhYxEvUM>

- (73) Sissi - Schicksalsjahre einer Kaiserin (Sissi face à son destin; The Fateful Years of an Empress), 1957, Ernst Marischka, Romy Schneider, Karlheinz Böhm.

<https://collections-search.bfi.org.uk/web/Details/ChoiceFilmWorks/150295388>

Festival de Cannes, 1958, Sélection officielle, SISSI, Schicksalsjahre einer Kaiserin (SISSI face à son

destin), Réalisé par Ernst Marischka.

<https://www.festival-cannes.com/f/sissi-schicksalsjahre-einer-kaiserin/>

エルンスト・マリシュカ (Ernst Marischka) 制作・監督・脚本による『シシィ』シリーズは、『シシィ (Sissi)』(1955年)、『シシィ・若き皇后 (Sissi - Die junge Kaiserin / Sissi impératrice)』(1956年)、『シシィ・運命の時 (Sissi - Schicksalsjahre einer Kaiserin / Sissi face à son destin)』(1957年)の三部作からなる。

コロンビア・ピクチャーズ製作の『楽聖ショパン』(A Song to Remember)』(1945年)は、マリシュカが1934年に制作した『別れのワルツ (Abschiedswalzer / Valse de l'adieu)』のリメイク版であり、マリシュカはアカデミー賞の原案賞にノミネートされた。

尚、シシィとの愛称で呼ばれるエリザベート皇后は1837年12月24日、バイエルンのミュンヘンで誕生しており、クリスマスの季節になると『シシィ』シリーズの再放・再上映されることもある。

- (74) cf. Chiara Bertoglio; Verdi's Va' pensiero is Our Own Song: An Anthropological Introduction to the World of Istrian Exiles, 2009.

<https://www.sibetrans.com/trans/article/64/verdi-s-va-pensiero-is-our-own-song-an-anthropological-introduction-to-the-world-of-istrian-exiles#:~:text=The%20Function%20of%20Va'%2C%20pensiero,as%20the%20Italian%20national%20anthem.>

- (75) 聖書 新共同訳、詩編137、日本聖書協会、1989、pp. (旧) 977-978.

- (76) Agathe Mahuet; « Giorgia Meloni » Épisode 3/5: Ciao Papa. (*op. cit.*)

- (77) Agathe Mahuet; « Giorgia Meloni » Épisode 4/5: “Appelez-moi simplement Giorgia”

<https://www.radiofrance.fr/franceinfo/podcasts/ces-destins-qui-font-l-info/ces-destins-qui-font-l-info-du-dimanche-23-novembre-7848947>

- (78) Susanna Turco ; “Giorgia Meloni, il teatro nel sangue. Ecco chi erano i nonni della premier”. La Repubblica. 2 décembre 2022.

<https://lespresso.it/c/politica/2022/12/2/giorgia-meloni-il-teatro-nel-sangue-ecco-chi-erano-i-nonni-della-premier/38532>

- (79) ジャンヌ・ダルク (Jeanne d'Arc) に象徴される fraternité の意義、あるいは春の青空高く^{さえず} 囀る^{ひばり} 雲雀に^{たと} 喩えられるジャンヌ・ダルクと fraternité についての詳述は、割愛する。

cf. Jean Anouilh ; L'alouette, FOLIO, Paris, 1973, 192pp.

- (80) 新村出編；広辞苑 (第六版総革装)、岩波書店、2009、p.2234. (*op. cit.*)

- (81) 明治神宮とは、昭憲皇太后について。

<https://www.meijijingu.or.jp/about/4.php>

- (82) 田中常憲；昭憲皇太后御歌讀本、文友堂、昭和9年 (1934年)、p.25.